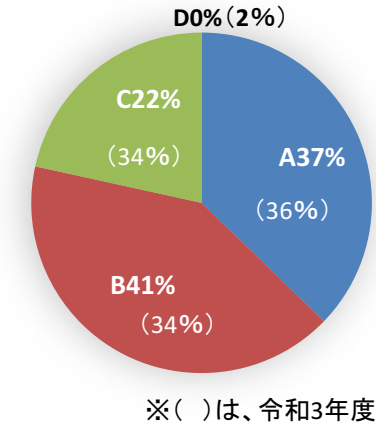


○具体的な事業ごとの進捗状況

区分	評価基準
A	数値目標を達成したもの →数値目標の達成率(または達成見込率)が100%以上
B	数値目標をほぼ達成したもの →数値目標の達成率(または達成見込率)が60%以上100%未満
C	数値目標の達成に向けて十分な進展が見られなかったもの →数値目標の達成率(または達成見込率)が60%未満
D	総合戦略の取り組み開始時と比べて、数値を改善もしくは維持できなかったもの、または状況を改善できなかったもの

評価	該当数	※()は、令和3年度
A	19	(18)
B	21	(17)
C	11	(14)
D	0	(1)
計	51	(50)



No	基本目標	具体的な事業	目標内容	目標数値	取組成果	評価	検証・課題	改善
(1)高知県産業振興計画の推進								
1	地域に根差した産業を振興し、安定した雇用を創出する	ユズの総合的な産地強化対策	ユズ販売額	年間5億円	・生産量(見込)750t ・販売額(見込)3.57億円	B	天候の影響を受け、裏年傾向が強まった結果、生産量が例年より大幅に減少することとなり、目標額より販売額が減少することが見込まれる。 ユズ農家の高齢化等のため、現状維持が精一杯の状況にあり、今後、耕作が困難になった園地を新規就農者等に円滑に引き継いでいく体制づくりが課題である。	独立自営した新規就農者が離農しないよう関係機関でサポートしていくとともに、県内外で開催される移住定住・就農相談会などに参加し、新規就農者の掘り起こしを行う。また、経営が困難となったユズ農家の園地を新規就農者等へ引き継ぐことができるような体制を整備し、産地として、平均的に年間5億円の販売額を目指していく。
2		地場産業(土佐打刃物、フラフ)の振興、鍛冶屋創生塾の運営支援	鍛冶屋創生塾研修生の人数	3名	3名	A	フラフ:掲揚、展示などを行い、PRを行っている。 土佐打刃物:現在研修中の第2期生は概ねスケジュールどおり実習等を行っており、順調に技術を習得している。	フラフについては、掲揚、展示などを通してPRを継続してしていく。また関係機関と連携し地場産業を広く周知させていく。 土佐打刃物については、鍛冶屋創生塾の運営主体である高知県土佐刃物連合協同組合、県の関係部署等と連携するとともに、創生塾の運営に対し補助金を交付する。
3		香美市ブランドの確立・特産品づくり(6次産業化の取組)	対象特産品数	1件	1件	A	目標値を達成し、既存の特産品の販路開拓を図ることができた。補助金の活用促進に関しては、特産品開発等を希望する団体等の情報を把握し、活用を促すことが必要である。	商工会、観光協会等と連携して特産品の開発等を希望する団体の把握に努めていく。補助金の交付を通じ、継続して特産品開発等に取り組む。
4		木材住宅支援事業	市産材を活用した木材住宅件数	20件	15件(予約4件)	B C	ウッドショックの落ち着きにより、ヒノキを中心に価格が下がりがつあるが、木材以外の他の建材が品薄状態で建築価格が高騰しており、依然としてコロナ禍前と比較して申請件数が少ない状況である。今後も引き続き新型コロナウイルス感染症による影響を注視しながら、事業の周知及び市産材の利用促進を図る。	併用を条件としている県補助金が、近年中に市内製材所では認定不可能な「JAS材」のみを補助対象にする予定であり、令和6年度末には木材住宅支援事業も第2期が終了するため、市内の住宅建築の現状や他課の住宅に対する補助金、県補助金の今後の方針を注視し、第2期以降の補助制度について見直しをかける必要がある。
(2)観光振興策の実施								
5		体験型観光の推進	体験型観光入込客数	年間131,126人	117,422人	B	依然として新型コロナウイルス感染症の影響があるが、体験型観光施設の入込客数は令和元年度の131,126人と比較して9割程度まで回復しており、コロナ以前の水準への復活の兆しが見える。	引き続き、補助金の交付、観光パンフレットの配布を行っていく。また、感染症対策用品の貸出、ものべSSS認証制度の運用などを通じて、観光施設の感染防止対策を推進し、観光客が安心して観光できる環境づくりに取り組む。
6		広域観光の取組の推進、龍河洞エリア活性化事業	①主要4施設観光入込客数 ②外国人観光入込客数	①292,622人 ②5,074人	①224,179人 ②76人 (①②ともR4年1月~12月)	C	主要4施設の観光入込客数は、令和元年度の292,622人と比較すると7割程度まで回復しているが、外国人観光客数は令和元年度の5,074人と比較すると、1割にも満たず、新型コロナウイルス感染症の影響が色濃い。しかし、令和3年度と比較すると入込客数が増加していることから、徐々に回復する見込みである。	龍河洞エリアに設置され龍河洞情報館から、香美市の観光情報を発信し、周遊を促す。

No	基本目標	具体的な事業	目標内容	目標数値	取組成果	評価	検証・課題	改善
(3)創業支援								
7	1 地域に根差した産業を振興し、安定した雇用を創出する	空き店舗等利活用助成事業	①新規開業 ②チャレンジショップ事業申請	①4件 ②3区画	①1件 ②4区画	B	新型コロナ感染の影響により新規開業は1件であった。チャレンジショップは年間を通してチャレンジャーがいたが全区画埋まる期間は少なかった。	空き家・空き店舗の調査を引き続き実施し、情報提供等の支援を継続する。
8		光通信技術や最新ITを活用した企業の誘致	光通信技術や最新ITを活用した企業の誘致件数	1件	1件	A C	今年度は目標を達成したが、すぐに入居できる物件が少ないことが課題。	シェアオフィスの整備を検討する。
9		中心商店街の活性化	通行量	各年度前年度比3%増 前年度41名	40名 (前年度比2.4%減)	C	新型コロナ感染症の影響下でイベント等が再開されつつあるが、通行量は伸びなかった。 香美市中心商店街等振興計画のアクションプランの検証を行い、現下に即した内容に変更した。	香美市中心商店街等振興計画のアクションプランについて4半期ごとの効果検証を行い中心商店街の活性化につなげていく。
10		土佐まるごとビジネスアカデミー(土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業等)の受講の推進	①土佐MBA受講者 ②土佐FBC受講者	①年間15人 ②年間1人	①年間16人 (R5.1.25時点) ②1人	A B	土佐MBAの受講者数は目標値を少し上回った。土佐FBC受講者への補助金は、受講者の負担軽減につながっている。	香美市のホームページやSNS等を利用し、両研修の広報活動を実施していく。また、土佐FBC受講者への補助金についても引き続き継続していく。
(4)農業の担い手の確保・育成								
11	12 13	新規就農研修支援事業	独立自営による新規就農者	年間7人 (親元就農を含む)	3名	C B	新規就農希望者から相談を受けるが、経済的な問題で経営開始を急ぐ場合や、補助事業の要件に該当しない(年齢要件など)場合があり、事業実施には至らなかった事例がある。	今後も、引き続き関係機関と連携して、新規就農者の確保に向けたPRを継続していく。
12		農業次世代型人材投資事業(現:新規就農者育成総合対策)				C B	新規就農希望者は多数いるが、兼業希望などが多く、事業規定にそぐわず、事業実施には至らなかった事例がある。	今後も、引き続き関係機関と連携して、新規就農者の確保に向けたPRを継続していく。
13		園芸用ハウス整備事業	①新規ハウス整備 レンタルハウス ②中古ハウスの再利用 流動化	①1件(2,000㎡) ②1件(2,000㎡)	①2件(3,816㎡) ②2件(3,818㎡)	A	就農して5年以上経過した農業者が新規ハウスの整備を2件、新規就農者が中古ハウスの整備を2件行った。就農相談の段階でハウス整備の意向を確認できたことで、補助申請や制度資金借入の準備がスムーズに進み、事業活用につながった。	新規就農者が活用を希望した場合は、円滑に事業が活用されるよう関係機関と連携して、支援を行っていく。
(5)林業の担い手の確保・育成								
14		林業担い手対策支援事業	新規林業就業者	5人	4人 (令和5年1月末時点)	B A	年間目標値には達していないが、5か年ベースで見ると15人/3年の目標を達成できている。しかしながら、新規就業者の離職も見られるため、新規林業従業者の雇用と併せて定着も課題である。	高齢による退職者が増えており、施業実施体制を維持するためにも、担い手の確保・育成が急務となっている。引き続き、市内林業事業体が行う新規就業者の雇用、及び新規就業者の指導者の確保を支援していく。
(6)企業立地促進奨励金事業								
15		企業立地促進奨励金事業	新規立地企業数	1件	2件	A D	長年、テクノパークの残り3区画となっていたが、残り1区画となったため、新たな工業団地の整備についても検討していく必要がある。	県との合同企業訪問、現行の支援体制の継続を図るとともに、進出企業に対する奨励金制度等の支援策を実施する。また、新たな工業団地の整備についても検討していく。

No	基本目標	具体的な事業	目標内容	目標数値	取組成果	評価	検証・課題	改善
(1)「香美市を知って・好きになってもらう」「移住に関心を持ってもらう」取り組み								
16	2 香美市への新しいひとの流れをつくる	移住ポータルサイトの作成	移住定住相談件数	年間120件	88件 (R4.4.1～R4.12.31)	B A	リニューアルした移住冊子が完成し、その冊子を活用しながら相談対応に取り組めた。 新型コロナウイルス感染拡大への対策にオンラインでの相談会等を開催し、相談件数を増やすことができた。	オンラインでのイベントを活用しながらwithコロナを想定して取り組む。
17		子育て世帯新築住宅取得支援事業	転入超過数 ①20歳未満 ②30歳代	①年間70人 ②年間27人	①96人 ②-2人	C A	今年度の申請件数は15件で、事業開始から始めて予算額に達しなかった。 物価高騰の影響で、建築費用の高騰が見込まれることから、よりコストを抑えるため、住宅購入を検討する30歳代の転出数が、翌年度より増加したことが考えられる。	令和5年度も事業を継続し、住宅購入者へPRし転入超過を目指していく。
18		移住交流体験ツアー委託	市外からの移住者数	年間23組	24組53名	A	新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、今年度もオンラインでの開催となった。物部町を中心に空き家などを配信するというもので、参加者には好評だった。	年毎に状況に合ったテーマを定めながら、今後とも継続していく。
19		お試し移住体験住宅	お試し移住体験住宅利用者	年間10組	7組 (R5.1.31時点)	B	年間目標10組に対し、7組。その内4組が香美市への移住につながり、一定の成果は上がっている。	お試し住宅の備品の老朽化に伴い、備品の入れ替えを実施予定であり、これを機に更なるお試し移住体験住宅の稼働率の向上に努める。
20		香美市奨学金返還支援事業補助金	補助金利用者	年間5人	10件	A 新規	想定以上の申請件数があり、補正予算にて対応。 来年度以降は補正予算で対応することの無いように計上予定。	申請件数を増枠し、香美市へ移住・定住の流れを作られるように取り組む
(2)移住の受け皿体制の整備充実								
21	22	NPO法人「移住定住交流業務委託」	①移住専門相談員の設置 ②HP「いなかみライフ」へのアクセス数	①3名 ②年間30万件	①3名 ②248,398件 (R4.4.1～R5.1.31)	B A	市と連携し、情報発信や相談窓口などの業務を行っており、個々の移住希望者等のニーズに合わせたサービスを提供している。	リアルでのイベントや面談が制限されるため、オンラインでの物件案内やイベントを開催し、移住者を増やしていくべく委託先と連携していく。
22		香美市移住定住推進協議会				B A	協議会での情報共有や協議を通じて、官民協働での移住定住施策の推進が図られている。	今後も年1回から2回、協議会を開催し、官民協働による移住促進を進める。
(3)住まいの確保								
23	24	空き家バンク登録事業	空き家バンク新規登録件数	年間10件	14件(R5.1.31時点)	A B	現在14件の新規登録があり、成果が上がっている。	継続的に空き家調査を進めるとともに、空き家の利活用について情報発信し、空き家バンクへの登録を促進する。
24		空き家改修費等補助金	空き家改修費補助利用件数	年間3件	7件	A	空き家バンクへの登録時および物件案内時に補助金について説明している。 住宅の耐震化が必須条件であり住宅耐震改修事業は、例年、予算枠以上の相談があるため、空き家改修の希望者が、すぐに空き家を改修できない事例が生じている。	今後も積極的に制度説明を行い、必要な改修を行ってもらう。また、住宅耐震改修事業を所管する防災部局と連携し、住宅耐震改修事業の予算の増額にかかる要望や相談者への対応などに取り組む。
(4)交流機会の創出								
25	26	学生地域活動支援事業	学生の活動人数	年間94人	55名	C	新型コロナウイルス感染拡大予防のため、学生団体が地域活動を控えたことにより、申請が少なかった。	学生団体が申請しやすいように、事前に相談等に応じるようにする。
26		学生地域活動支援事業	学生の活動人数	年間94人	55名	C	新型コロナウイルス感染拡大予防のため、学生団体が地域活動を控えたことにより、申請が少なかった。	学生団体が申請しやすいように、事前に相談等に応じるようにする。

No	基本目標	具体的な事業	目標内容	目標数値	取組成果	評価	検証・課題	改善
(1)出会い・結婚支援事業								
26		交流・婚活推進事業	①出会いの場作りのイベント参加者のうち、香美市在住者の割合 ②イベント参加者の満足度	①20% ②80%	①30% ②72.5%	B	参加者のうち香美市在住者のほとんどが、県のHPや案内・メール・広報からイベント情報を得て申し込みされている。チラシデザインや文章表現を工夫し、より魅力的に宣伝した効果が出たのではないかと考える。一方、企画内容については準備が不足し、満足度を高めることができなかったことは反省する必要がある。	参加者の年代層に合わせた進行方法や企画内容が、満足度を高める上で重要である。今年度の経験を元に、目標数値達成へ向け来年度の企画作りに活かしたい。
(2)母子保健事業								
27	3 子どもを産み育てやすい環境をつくり、若い世代の結婚・妊娠・出産の希望をかなえる	母子保健事業	①妊娠週数11週以下の妊娠届出率 ②1歳6か月児健康診査の受診率 ③3歳児健康診査の受診率 ④妊娠・出産について満足している者の割合	①93.0% ②96.2% ③95.2% ④90.0%	①87.7% ②96.3% ③96.2% ④93.3% ※全てR5.1月末現在	B	・R4年度は、妊娠週数11週未満での届出率が低下している。1歳6か月児、3歳児健康診査受診率は目標数値に達した。 ・R4年度は新型コロナウイルス感染拡大があり実施の際縮小した事業はあったが、感染予防対策をとり思春期保健事業・乳幼児健診事業等を実施した。	・今後も感染予防対策をとりながら、事業や相談を実施し、住民ニーズに合った切れ目ない支援を継続していく。 ・乳幼児健診や妊娠の届出については、今後もホームページ等で啓発していく。 ・事業実施については、新型コロナウイルス感染症の対応ステージに合わせ実施できるように、内容等を検討する。
(3)待機児童の解消								
28		低年齢児保育促進事業	加配による途中受入児童数	・0歳の場合 3人 ・1歳または2歳の場合 6人	0人(0歳)	C A	予算は準備しているが、職員を募集しても、確保ができない状況にある。	職員の確保については、あらゆる求人方法を利用して、確保に努めていく。
(4)子育て世帯への経済的支援の充実								
29		児童医療費助成事業	対象範囲の維持	小学校1年生から中学校3年生まで	小学校1年生から中学校3年生まで	A	子育て世帯の負担軽減となっている。	現状を維持し、継続していく。
30		多子世帯保育料等軽減事業	保育料等軽減対象児童数	年間60人	41人	B	申請者に対しては全員、給付を実施できた。保育料の軽減を図り、保育所等を利用しやすい環境を整えることができた。	多子世帯の経済的負担を軽減できるよう、継続していくとともに、申請漏れがないよう、制度について、広報等で周知を図っていく。
31		子育て世帯住宅リフォーム支援事業	子育て世帯住宅リフォーム補助金利用件数	年間5件	15件	A	子育てを行う世帯の経済的負担の軽減及び世代間の子育て支援となっている。	令和5年度は事業を継続する。
32		高等学校等通学費補助金					令和3年4月1日からJR四国バスの定期運賃が改定され、当補助金に関連する路線の通学定期購入費用が月額1万円を下回る金額となった。当補助金は通学定期券購入費のうち、月額1万円を超える額を補助することとしており、改定後の金額がそれを下回るため、令和3年度以降は補助制度利用が無い見込となる。	
(5)地域子育て支援拠点の充実								
33		地域子育て支援拠点事業	子育てひろばに満足・まあ満足の利用者の割合	80%	100%	A	新型コロナウイルス感染防止対策として県の警戒レベルの高さによっては、規模縮小や人数制限を設けざるを得なかったものの、事業は実施できた。また、訪問支援は感染リスクを考慮し実施しなかったが、子育て通信の個別配布や家庭への電話連絡などを行った。	新型コロナウイルスへの対応が変化していく中で、これまで制限したり規模縮小をしていた事業を徐々に回復させ、子育てセンターの利用満足度も継続させていく。
34		一時預かり事業	年間一時預かり児童数	750人	773人	A B	発達や年齢の異なる児童を複数同時に預かる一時預かりの環境で、新型コロナウイルス感染防止対策の工夫をしながら保育を行った。 職員間で情報共有を行い、個々の発達・年齢に応じた保育ができるよう取り組んでいる。	引き続き、他の子育て資源の情報(子育てひろば、ファミリーサポートセンター等)を提供し、利用者の満足度向上を図る。

No	基本目標	具体的な事業	目標内容	目標数値	取組成果	評価	検証・課題	改善
35	3 子どもを産み育てやすい環境をつくり、若い世代の結婚・妊娠・出産の希望をかなえる	ファミリー・サポート・センター事業	依頼会員と援助会員の合計会員数	70人	92人 R4.12月末時点	A	会員数は成果目標値に達しており、相互援助活動も活発に行われている。援助会員の育成については引き続き取り組みを進める必要がある。	引き続き、活動の周知や会員増加を図るため、広報活動の場や方法を増やしていく。
36		放課後児童クラブ	①各児童クラブにおける認定資格保有者 ②専用施設の整備	①2名 ②7校区(10児童クラブ)	①2名 ②7校区(10児童クラブ)	A B	香長小学校児童クラブの専用施設整備および大宮小学校児童クラブ増築が完了した。市内全校区で専用施設が整備された。	今後は、老朽化してきた楠目小学校第一児童クラブの改修を検討する。
37		放課後子ども教室	一体型サービスの実施	2学校区	2学校区	A	既実施済の2学校区では、引き続きサービスの実施ができたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、小学校区の子ども教室の開催数および実施箇所を拡充することはできなかった。	新型コロナウイルス感染症対策(消毒液の配布、新しい生活様式の実践など)を徹底し、子ども教室を開催していく。また、今後、放課後児童クラブ専用施設が整備される中で、子ども教室を実施していない学校区における一体型のサービス実施について、施設の指定管理者とともに検討する。
38		放課後学習支援	①放課後学習支援を実施する学校数 ②高知県学力定着状況調査(小4、5、中1、2年生対象)	①10校 ②未達成の児童生徒を減少させる	①10校 ②・高知県学力定着状況調査で未達成の児童生徒の割合(小4)国26.9% 算36.5% (小5)国23.3% 算31.8% 理35.8% (中1)国32.6% 社41.5% 数34.8% 理38.6% 英55.2% (中2)国30.2% 社55% 数50.7% 理46.7% 英64.2%	B	・今年度は全学校に放課後学習支援員を配置することができたが、今後の人員確保が課題である。 ・本事業の活用により、児童生徒の基礎基本の定着、そして学習意欲の向上につながっている。	今後も本事業を継続し、児童生徒の基礎学力の定着を図る。
(6)確かな学力の推進・きめ細やかな教育の推進								
39	学力向上推進事業	「全国学力・学習状況調査」	小学生は全国平均値より5P以上、中学生は全国平均値以上となる	小学生は全国平均値より5P以上、中学生は全国平均値以上となる	R4全国学力・学習状況調査(小6)国-1.6p 算+1.8p (中3)国+2.0p 数-0.4p	C	各学校の公開授業研究会や学力調査結果から、課題を明らかにし、授業改善に努めることができた。また小中で系統的な学びの重要性と具体的な実践を共有することができた。今後、個々のつまずきの把握と具体的支援が必要である。	ICT等を活用し、個々のつまずきに具体的にアプローチする実践事例を市内学校に紹介する等して、個々の児童生徒への課題克服に繋げていく。
40	国際バカロレア教育推進事業	大宮小学校、香北中学校が国際バカロレア認定校となる。	(香美市の認定校)2校	(香美市の認定校)2校	R4.12:香北中学校認定校となる。	A C	香北中学校が認定となった。今後、9年間で学びと育ちを支えるという視点に立った小中一貫教育の更なる充実及び探究のモデル地区として実践を広げる必要がある。	現状を踏まえ、大宮小学校、香北中学校の合同研修会及び小中合同公開授業研究会の実施により、香北地区のIB教育の更なる充実及び実践を香美市内に広げることを目指す。それらの取組で学力を向上させ、KPI達成につなげていく。
41	教育支援センターの充実	不登校児童生徒数	不登校児童生徒数35名、新規不登校児童生徒数を5名、に減少させる。	不登校児童生徒数35名、新規不登校児童生徒数を5名、に減少させる。	不登校児童生徒数は43名、新規不登校児童生徒数は17名。昨年度同時期に比べ不登校児童生徒は7名減少、新規児童生徒は同数。現時点で今年度の目標数値は達成できなかった。	C	令和4年12月末調査(20日以上欠席で計上)では不登校児童生徒は43名、新規不登校児童生徒は17名。昨年度同時期に比べ不登校児童生徒は7名減少、新規児童生徒は同数。現時点で今年度の目標数値は達成できなかった。	令和5年度から、個別最適な支援をつなぐ校区内連携事業を活用し、山田小学校を中心とした小中・小小連携を行い、児童生徒の健全育成に取り組む。

No	基本目標	具体的な事業	目標内容	目標数値	取組成果	評価	検証・課題	改善	
(1)集落活動センターの普及・取り組み支援									
42	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	集落活動センター事業	・既存(2箇所)の集落活動センターの継続 ・3箇所目の集落活動センター設立に向けて、具体的な事業計画等の作成。	①既存2箇所の継続 ②3箇所目設立の事業計画作成	①2箇所継続 ②準備会の設立支援を行った。	B C	今後も、美良布・ひらやまの集落活動センターの運営や活動を支援する。 物部地区集落活動センター立上げは、令和2年度に準備会が発足し、協議を継続しているが、運営主体の推進協議会への移行には至っていない。推進協議会の役員を選出し、具体的な事業計画等を作成することが課題である。	地域住民が主役となる集落活動センターが確立できるよう、必要な支援を行う。 既存団体の関係者や物部地区内の自治会長に、集落活動センターの取組みへの参画を促し、会員の増員に努める。	
(2)あつたかふれあいセンターの整備・機能強化									
43		あつたかふれあいセンター事業	地域サロン利用者数	年間5,000人	3,570人	B C	・子どもから高齢者まで誰でも自由に気軽に立ち寄ることのできる集いの場を開設した。 ・地域での見守りの必要な方への訪問、電話及び郵便による見守り活動を実施した。 ・前年度と比較し、感染症の制限緩和、新規事業(山田圏域)及びお茶会(香北・物部圏域)の充実により、年間利用者数が増加している。	引き続き、地域でお互いが見守りあえる体制の充実を図るため、ボランティアの研修会等を実施し、集いや訪問活動等に協力していただけるボランティアの育成を行う。	
(3)市営バスの利便性向上									
44	市営バス運行委託事業	市営バス利用者数	年間32,000人	19,948人 (R4.4~R4.9)	B	通学・通院等の定期利用者が多い。利用者を増やすためには新規利用者開拓が必要である。	香美市地域公共交通計画を策定し、市営バスや民間公共交通機関も含めた長期的な香美市の地域公共交通のあり方を決定する。		
(4)地域の担い手の育成・災害対策の充実									
45	自主防災組織育成事業、防災士資格取得補助事業	①自主防災組織率 ②防災士の資格取得者	①97.80% ②90名(令和4年度終了時点)	①97.6% ②51人(R2年度からの累計)	C	山間部の過疎・高齢化、市街地での地域コミュニティの低下、自治会への加入率の低下などの理由により、自主防災会の設立に関する協議が困難な状況である。	自主防災会未設立地区に対し、引き続き説明会や自治会長への訪問を行う事で、設立を呼び掛ける。		
46	住宅耐震改修事業	住宅耐震改修件数	70件	66件	B	施主の体調不良等の理由により、中止となった物件が3件あり、うち2棟は工期確保が困難な時期であったことから、予定棟数に達しなかった。	耐震改修に係るニーズは増加傾向にあり、令和4年度より事業量を増やして対応している。 引き続き低コスト工法等の周知により耐震改修の推進を図るとともに、適切な進捗管理を行い、中止物件の早期把握に努める。		
47	老朽家屋除却事業	避難路に面した老朽家屋除却件数	20件	24件	A	交付申請額が補助上限(1,645,000円)に満たないケースが複数あり、予算に余裕があったため、予定以上の家屋を除却することができた。	今後も計画通り老朽住宅の除却を進める。		
(5)地域ぐるみの教育の推進									
48	「よってたかって地域が育てる教育」推進事業	地域学校協働本部の延べ活動日数	150日/校	約100日/校	B C	・新型コロナウイルス感染症の影響により、地域学校協働本部の活動が縮小された学校もあるが、多くの学校が感染対策を取りながら、活動を進めている。 ・地域学校協働本部の総会の実施については、昨年度の2校から今年度は5校に増えた。 ・地域学校協働活動推進員の研修については、年間5回実施(予定)した。	地域学校協働本部の活動では、コロナ禍でもできる取組について事例の紹介を行う。地域学校協働活動推進員の研修では各校の取組について情報を共有し、協働本部間の連携につなげていくなど、横のつながりを強化していく。		

No	基本目標	具体的な事業	目標内容	目標数値	取組成果	評価	検証・課題	改善	
49	域4 と時代 を連携 する地 域をつ くり、 安心な 暮らし を守ら せると ともに 、地	ふるさと教育推進事業	「私は自分の住んでいる地域が好きである」肯定群	①小学6年生：90%以上 ②中学3年生：90%以上	参考(全国学調)「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」小6 61.9%(全国平均 51.3%) 中3 46.2%(全国平均 40.7%)	B	総合的な学習の時間を核とした体験活動は全ての小中学校では実施できたが、地域資源を活用した新型コロナウイルス感染症の影響により縮小しての実施となっている。	9年間の学びを通して、地域の教育資源に触れる機会を総合的な学習の時間等で作っていく機会が必要である。新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底したり、実施時期の調整を図りながら、継続的に事業を実施していく。 目標「私は自分の住んでいる地域が好きである」の調査が終了したため、R5年度以降は、今回参考とした「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」を目標として取り組む。	
(6)高知工科大学との連携									
50		小中高等学校と大学の連携の推進	高知工科大学への香美市出身者の進学人数	年間10人	5名	C	キャリアチャレンジデイは開催されたが、コロナの影響で感染者数増加のため大学生による支援が中止となった。 小中学校では、総合の学習の時間の取組の中で、工科大生からタブレット端末を活用した動画作成やAR体験などをの授業支援をもらった。	新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底した上で、今後も工科大の学生と小中学校が関わる取組を継続的に実施していく。 ・キャリアチャレンジデイについては、当日の運営について工科大生にサポートしてもらうよう計画する。 ・社会科副読本のデジタル化についても支援いただく。	
51		高知工科大学地域活動奨励事業	地域力の強化や維持に関する事業数	年間6事業	4事業	B A	コロナ禍中であるが、オンライン等を活用し、活動を実施できた。	コロナ禍において実施可能な地域活動について、連携協議会にて協議し、地域活動の活性化を図る。	
52	高知工科大学インターンシップ受入事業	実習生の受入	年間4名	3名	B C	10日間の受け入れとなっているが、一部署での受け入れが困難であるので多部署で調整が必要となる。 学生にとっては、様々な体験ができる。 個人情報扱う部署での受け入れが困難である。	様々な部署での体験を企画し、香美市役所で働くことの魅力を実感できるようにする。		